



神輿渡御(撮影:富井純朗)



第十六桑園祭典区山車 桃太郎(撮影:富井純朗)

開拓の群像

医師ながら政治の中枢に くりもと じょうん 栗本 鋤雲 合田 一道氏

円山地域の生物

日本の国蝶 オオムラサキ

札幌市円山動物園
動物専門員 石井 亮太郎氏



ご挨拶



宮司 間島 誉史秀

境内の木々の緑が日に日に鮮やかになり、今年も例祭を迎える季節となりました。

さて、札幌まつりとも呼ばれ、市民の皆様から愛されて参りました北海道神宮例祭であります。新型コロナウイルス感染症の影響により、神輿渡御や奉納行事は令和二年、三年と二年に亙り執り行うことが叶いませんでした。しかしながら、昨年は、年番第九東北祭典区をはじめ、各祭典区、ご関係各位のご協力とご尽力により、やむなく規模は縮小いたしましたが、三年ぶりに御鳳輦が札幌の街を巡幸され、境内も多くのご参拝の方で賑わいました。

本年につきましては、年番をご奉仕頂きます第十六桑園祭典区の皆様をはじめ、各祭典区、ご関係各位のご熱意により、実に四年ぶりに日程、巡行路、供奉員等、本来の規模で渡御祭を肅行することにご決定頂きました。まことに、ご同慶の至りでございます。

北海道神宮例祭における神輿渡御は、北海道神宮が札幌神社と呼ばれておりました明治十一年に、神輿が一基、市

中を渡御したことから始まります。当時の市民の熱望により恒例となり、その後、神輿は開拓三神に依じて三基となり、大正七年には神輿は鳳輦に代わり、昭和三十九年の明治天皇御増祀に伴い、昭和四十年からは四基となり、現在に至っております。山車については、明治十一年の例祭に薄野の芸妓、常磐津連中などが、車二台で繰り出したことが嚆矢とされ、増減を繰り返しながら、現在では九基の山車が神輿渡御に華を添えております。

時代とともに変化し続けながら、今日へと受け継がれて参りました札幌まつり、神輿渡御であります。本年、四年ぶりに本来の規模で肅行されるにあたり、現在、年番をはじめ各祭典区の皆様、関係各署と綿密なお打ち合わせと準備を鋭意執り進めている処でございます。本年の例祭、神輿渡御が、恙なく盛大に賑々しく執り行われますことはもとより、後の世代に繋げて参るべく、ご崇敬の皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

年番奉仕にあたり



第十六桑園祭典区代表委員長
敬神講社 講長

木村 康之

令和五年度北海道神宮敬神講社年番の「奉仕にあたり、奉仕役員を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年、十月十七日に神嘗奉祝祭並びに年番引継ぎ式が肅行され、間島宮司様より敬神講社旗をお預かりし、第九東北祭典区若林雅教様より年番の引継ぎを受けて以来、北海道神宮様や各関係方面の皆様方と、幾度も協議を重ね準備を進めて参りました。

当桑園地区は、明治八年、当時養蚕を奨励していた開拓使の開拓大判官松本十郎の招聘に応じた旧庄内藩（現在の山形県）の士族百五十六名が原始林を開墾し、桑の苗木を四万株植えたことから始まりました。その後も桑畑が広がったことから、桑園と呼ばれるようになったそうです。このような歴史が刻まれた「桑園碑」は桑園開拓事務所のあった地に建てられた知事公館の西門のそばに建てられています。

現在ではその知事公館をはじめ、道立近代美術館、市立札幌病院、札幌競馬場、JR本社、北大植物園、中央卸売市場などが設けられており、歴史と文化が調和し

た緑の多い街となっています。

祭典区としましては、昭和十六年からはじまり、平成二十六年以来九年ぶり八回目の年番奉仕となります。昨年は北海道神宮様、第九東北祭典区様のご尽力によりコロナ禍により中止が続いておりました渡御をはじめとする「札幌まつり」が、三年ぶりに執り行われ、街に活気を取り戻してくださいました。そして、今年はその熱意を引き継ぎ、コロナ禍以前の形での肅行となります。明治十一年より始まった神輿渡御、そして例祭に関わる諸行事の肅行を担うということは非常に榮譽あることであり、光栄なことと存じます。この重大な責務を全うするべく、我々役員、奉仕員のみならず桑園地域の皆様と共に、総力をあげて奉仕に臨み所存でございます。

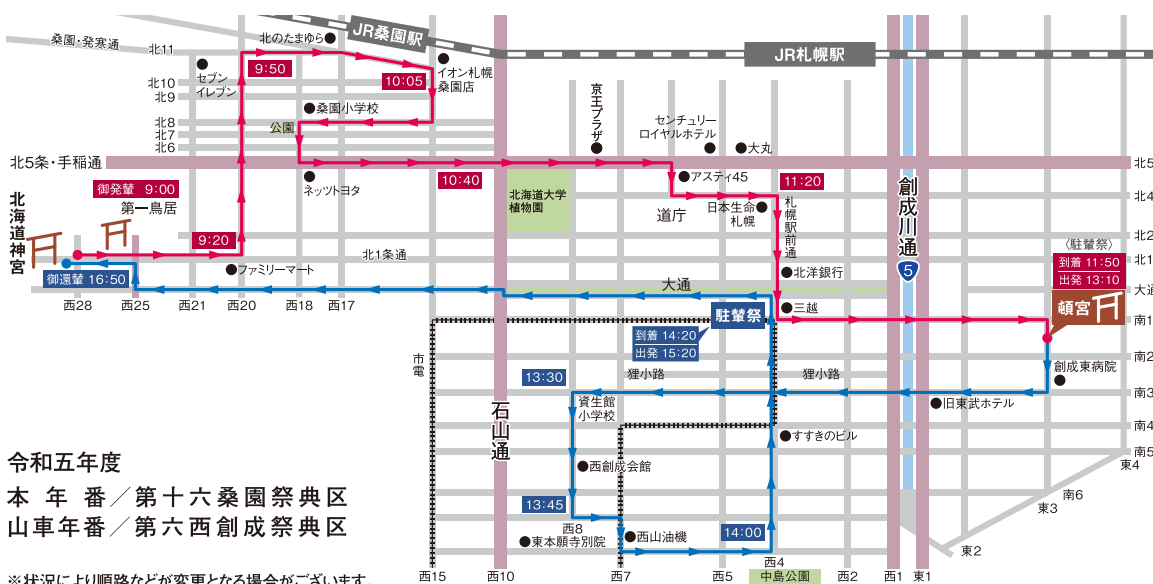
各祭典区の皆様をはじめ関係諸団体の皆様におかれましては、伝統あるこの御祭礼が恙なく肅行されますよう、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

令和5年 北海道神宮例祭 奉納行事予定

15日 例祭 午前10時 / 本殿					14日 宵宮祭 午後6時 / 本殿				
行事名	時刻	奉納団体	場所	備考	行事名	時刻	奉納団体	場所	備考
古式大的式	11:00	札幌弓道連盟	弓場		古典ラダス・カウ	11:00		土俵舞台	
ヒーロー和芸ショー	11:30	道産子ヒーロー舞神ソランドラゴン	土俵舞台		ひよこ踊り	11:40		土俵舞台	
能 楽	12:00	札幌能楽会	土俵舞台		北海道流芸あはれ	12:20		土俵舞台	
空手演武	13:00	NPO法人日本空手道振興会 強健流空手道	土俵舞台		チンドン屋	13:00		土俵舞台	
古武道演武	13:40	北海道古武道協会	土俵舞台		櫻川千代助社中	13:30		土俵舞台	
ハープ演奏	14:30	北海道ハープアンサンブル	土俵舞台		北海道神宮奉賛吟詠講	14:30		土俵舞台	
三楽演奏	15:30	北海道神宮舞楽会	土俵舞台		朗読コトつたりしすか	14:00		土俵舞台	
神宮の森コンサート	17:00	宮の森小学校スクールバンド	土俵舞台		北海道神宮奉納会	15:00		土俵舞台	
雅 楽	18:00	北海道神宮職員他	土俵舞台		日本舞踊あきの会	15:30		土俵舞台	
福井ばやし	18:00	札幌福井ばやし保存会	土俵舞台		三楽神楽	16:00		土俵舞台	
フクロウたえまり	18:00	三山山放送局	土俵舞台		和太鼓演奏	16:00		土俵舞台	
人形浄瑠璃	18:30	さっぽろ人形浄瑠璃あしり座	土俵舞台		都山流尺八献笛	16:10		土俵舞台	
チェンバロ演奏	19:15	明楽みゆき 現代版北前船プロジェクト	土俵舞台		浦安の舞	16:40		土俵舞台	
					獅子舞 和太鼓演奏	17:00		土俵舞台	
					ヨサコイソラン	19:10		土俵舞台	
					大鼓演奏	19:25		土俵舞台	
					ジャズコンサート	19:30		土俵舞台	
					ジャズコンサート	20:00		土俵舞台	
					ジャズコンサート	21:00		土俵舞台	

※奉納行事の予定は、予告なしに中止もしくは変更になる場合がございますが、ご了承ください。
※終日混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。 ※野点並びに大道芸猿回しは中止となります。

神輿渡御 順路図



医師ながら政治の中枢に 栗本 鋤雲



栗本鋤雲

栗本鋤雲は黒船来航に伴い、開港された箱館(函館)に、幕府の命令でやってきた医師ですが、単に医療、衛生面だけでなく、科学的な知識と優れた政治的識見で北海道はもとより、わが国を支えた人物なのです。

鋤雲は文政五年(一八二二)、江戸の神田裏猿楽町で、幕府の医師、喜多村槐園(かいたん)の三男に生まれました。名は鯉(こい)、幼い時は哲三郎。八歳で安積良斎(よしかい)について儒学を学びますが、翌年、肺を患い、心配した両親は学問を辞めさせます。だが鋤雲は「本草学」に興味を持ち、別の師について学びます。

一七歳になると健康も回復したので、再び

以後毎年納入するよう命じられます。

鋤雲は七重村(現七飯町)の菜園に着目し、規模を拡大して各種の葉草を栽培し、さらに松や杉の苗木を植えました。松や杉は



旧幕府時代の箱館奉行所(後の開拓使函館支庁) =北海道大学附属図書館

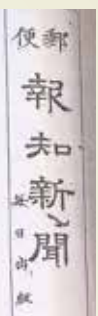
四年後に成長し、五稜郭内の周辺や湯川街道七重街道に植樹されるのです。

一方、大野村付近で失敗した紡績事業を建て直そうと自ら現場に入り、指導、監督しました。養蚕にも乗り出したので、絹織物が大量生産できるようになりました。また七重菜園の産物を箱館に送り出すのに、船を用いようと計画し、久根別川を開削しました。

箱館開港以来、外国人の往来が多くなり、牛乳や牛肉の需要が増えたので、牧畜にも着

安積塾へ、そして昌平黌に入学します。ここは幕府の大学で、各地から人材が集まっていた。ところが鋤雲は途中で退学になりました。理由はわかりません。でも後年、昌平黌の頭取(校長)になっていることから、少なくとも道義的な問題でなかったのは明らかです。退学を知った教授の佐藤一斎は、自分の私塾に入れて学問を学ばせました。

二七歳で栗本家を継いだ鋤雲は、幕府の寄合医師になり、後に奥詰医師として製薬局の仕事に励みます。ところが安政三年(二八五



六)、とんでもない事態が起きます。



前年、オランダから幕府に贈られて、海軍伝習所の練習船となった「観光丸」が、長崎を発ち、江戸に入港し、希望者に乗船を許し

目し、軍川原野を開き、南部(岩手県)から種牛百頭を買い入れて、放牧しました。

このようなさまざまな事業を行う中で、鋤雲は、実力のある者は身分に関わらず登用しました。当時は稀なことで、鋤雲の評判は高まるばかりでした。

安政六年(二八五九)、鋤雲は箱館にいる医師たちに呼びかけて、病院を創設しようと呼びかけました。ところが翌年、ロシア領事ゴスケウイチが大病院を計画しているのを知ります。外国人に先を越されてたまるかと、金策に飛び回り、やっと文久元年(二八六二)春に建設されたのが箱館医学所です。

鋤雲は箱館奉行の命により、フランス人宣教師メルメ・デ・カシオンに日本語を教えました。教えながら自分もフランス語を学び、海外の事情も知ります。これが後の外交交渉に役立つことになるのです。

文久二年(二八六二)、鋤雲は医籍から士籍に改められ、箱館奉行組頭に任じられます。当時としては破格の出世でした。この頃、樺太は日口の国境問題で揺れていました。鋤雲は樺太に赴き、択捉、国後を巡って箱館に戻ると、外交についての建議書を提出しまし



七重勸業試験場(明治10年頃) =北海道大学附属図書館

たのです。鋤雲は願い出て許され、乗船しますが、上役から「西洋医学を禁じられている幕府の医官が、西洋の艦船に乗るのは違法だ」と非難され、自宅謹慎のうえ、蝦夷地勤務の命令が下ったのです。左遷です。

安政五年(二八五八)五月、鋤雲は家族を連れて箱館へ移り住み、ここで五年余り勤務する中で、さまざまな研究を重ねます。その一つが薬草の研究でした。

勇払まで足を延ばして薬草を調べ、千歳では朝鮮産と同種の北五味子を発見しました。これは木蘭科に属する野生の落葉藤本で、果実は滋養、強壮剤に用いられ、咳止めの効果があるのです。箱館奉行を通じて幕府に献上したところ、貴重な薬剤であるとして、

これにより鋤雲は江戸に戻され、なんと昌平黌の頭取に任命されたのです。

慶応三年(二八六七)、兵庫開港を巡って外国四方国は、繰り上げ開港を迫り、紛糾しました。幕府は老中二人を処分して謝罪したが収まらず、鋤雲に交渉するよう命じます。外国奉行となった鋤雲は諸外国公使と交渉を重ねるなどその矢面に立つて奮闘します。

その後、將軍慶喜の弟昭武一行がフランス・パリなどを巡るうち、難題が持ち上がる。急遽、パリへ赴きます。だが幕府瓦解の報が届くと、無念の思いで帰国します。

明治維新により幕府が崩壊し、世の中は様変わりしました。鋤雲は横浜毎日新聞に招かれ、翌年、郵便報知新聞社に移り、政治のあり方や自分の意見を一〇年余にわたり執筆し、多くの読者の支持者を集めました。

◆プロフィール◆

昭和九年(一九三四)、空知郡上砂川町生まれ。北海道新聞に入社し、道内各地を回る。在職中からノンフィクション作品を発表。『定山坊行方不明の謎』で北海道ノンフィクション大賞を受賞。退職後は札幌大学文化学部講師。著書は『日本史の現場検証』『人間登場』北の歴史を彩る『大君の刀』など。

オオムラサキ

札幌市円山動物園

動物専門員 石井 亮太郎

日本を代表する国蝶に指定されているオオムラサキは、沖縄県を除く日本各地に生息しているタテハチョウ科の仲間です。北海道では札幌市、石狩市、栗山町、仁木町、余市町などに生息しており、中でも円山地域は有名な生息地となっています。

オオムラサキは漢字で表記すると「大紫」と呼ばれるように、オスの翅は非常に美しい青紫色をしており、森の宝石と呼ばれます。

成虫は樹液を吸い、幼虫は北海道ではエゾエノキを食樹として生活しています。北海道では主にミズナラ、ハルニレの樹液に集まっているようです。幼虫の食樹、成虫の糧となる樹液、そして湿気のある豊かな自然環境がオオムラサキの生活には欠かせない



落ち葉の裏にいた越冬幼虫

す。越冬するための葉は、雪が降っても体が潰れないよう、ある程度固さのある葉が選ばれており、円山動物園ではハルニレの葉が好まれているようです。

幼虫は普段、葉の色に似せた緑色ですが、越冬幼虫は落ち葉に擬態して茶褐色に変化します。体色の変化は日照時間に関係するようですが、葉裏に移動した越冬幼虫を観察すると様々な体色が見られることもあります。そして、落ち葉の下で厳しい冬を越した幼虫たちは、翌年の五月中旬頃、食樹に登りはじめると再び体色を緑に変



雄のテリトリー行動

のです。つまり、オオムラサキが生息していることが、円山地域の自然が豊かな証にもなっています。

そんなオオムラサキですが、円山地域では例年、七月上旬頃から成虫が羽化し始めます。オスはメスよりも先に羽化し、他個体より早くメスと交尾するためにテリトリーを守る行動をします。テリトリー行動中のオスは、梢に止まり辺りを監視して、テリトリーに侵入してくる他の昆虫はもちろん、ハトなどの野鳥までも果敢に追い払います。初夏に梢を見上げると、テリトリーを飛行するオオムラサキを観察できるこ

化させ、エゾエノキの葉が展開すると再び摂食を開始します。ここからの成長は早く、あつという間に終齢幼虫となり、大きさはおよそ5cmまで成長します。

六月中旬を過ぎたあたりから蛹になり、成虫になる最終段階を迎えます。蛹もまた擬態に優れており、体には葉脈そっくりの模様が見られ、巧な保護色によって天敵から身を隠します。そしてまた七月上旬頃、羽化が始まり、子孫を残すため、力強く森を



オオムラサキの蛹

とでしょう。

産卵は七月下旬頃から行われ、一頭のメスは一回に数十〜百ほどの卵をエゾエノキの葉に産みつけて、卵は約一週間で孵化します。孵化した幼虫は分散し、エゾエノキの葉を食べて成長します。夏に孵化した幼虫たちは秋までに大きさ2cmほどの三齢、あるいは四齢幼虫になり、冬を迎える準備をします。寒さが厳しくなり、紅葉の季節になると、幼虫たちは食樹を自分で降り、あるいは葉とともに地面に落ちて、食樹の根本付近の落ち葉の裏に移動し、越冬しま



上が雄、下が雌個体

舞うのです。

オオムラサキの命のドラマはこうして毎年繰り返されています。小さく尊い命が繋がる円山地域の豊かな自然環境は、大都会に隣接していることを忘れてしまう程です。

しかし、オオムラサキは環境省レッドリスト2020で準絶滅危惧種に指定されており、円山地域でも一昔前と比べると、かなり減少しているようです。

円山動物園では、オオムラサキの保全プログラムを立ち上げ、オオムラサキをはじめ、多くのチョウが昔のように飛び交う「懐かしい未来」を目標に、円山周辺の環境保全活動に取り組んでいます。より多くの方にチョウの魅力を感じて頂こうと、昨年からはオオムラサキの観察会を実施しております。動物園の森を散策しながら、実際にオオムラサキの幼虫、蛹、成虫のテリトリー飛翔などを間近で観察し、命を体感できる観察会になっております。今年も開催いたしますので、皆様のご参加お待ちしております。

フラヌイ大注連縄について

北海道神宮の神門にはお参りにくる人々を圧倒するほどの大きな注連縄がかけられています。あまりの迫力に、思わず写真を撮ってしまう人の姿は後を絶ちません。注連縄の上には二段の俵と御幣が飾られており、この形状の注連縄は全国的に見ても珍しい形のもので、この注連縄は「フラヌイ大注連縄」と呼ばれるもので、北海道中富良野町の農家などで結成する中富良野俵御興同志会がおおよそ四年に一度、北海道神宮に奉納しています。今回は、この大注連縄についてご紹介いたします。



フラヌイ大注連縄

歴史

延宝四年、陸奥津軽開拓の神、農漁業の守護神として崇敬されていた岩木山神社の改築落成にあわせ、敬神の念が厚い農民達が「大注連縄」



取り付け奉仕

同組合組合長）などが見守り、新聞社やテレビ局が撮影する中、大注連縄は神門へと取り付けられ、終了後神前にて奉告祭を執り行い、終了後には同志会の有志による津軽鹿獅子舞が奉納されました。こうして同志会の念願であった札幌神社に対する初めての大注連縄奉納が終わりました。

第二回の奉納は昭和三十八年の三月二十一日に町村金吾氏の北海道知事当選を祈願して奉納されています。尚、この際、札幌神社佐伯宮司の発案で、同志会会長、副会長、森村長の三者で協議した結果、大注連縄に「フラヌイ大注連縄」と名称が生まれました。尚、この大注連縄は昭和五十二年に中富良野町の無形文化財の指定を受けています。

明治天皇が御増祀され札幌神社から改称した北海道神宮に対し、昭和四十一年には神門改築落成にあわせて第三回目の奉納。昭和四十三年六月九日に開道百年を記念して豊作祈願五

サエギサエギドッコサエギオ山ニハツダイ コンゴ ウードウライ イツニナルホイ ナノキン妙ドライーと唱えながら白装束姿で奉納し、これが恒例となったことが始まりとされています。

明治三十年には、この地域に住んでいた人々が北海道に渡り、開拓の鋏を振るって村を作り、そしてお社を建立しました。これが今の中富良野神社となり、その例祭日の前夜には大注連縄が毎年奉納されていました。

しかし、戦後日本はマッカーサー元帥率いる進駐軍により占領されてしまいます。その中で「神道指令」が出されるなど、神社への信仰の維持が難しく、大注連縄の奉納も途絶えてしまうこととなりました。

しかし、約五年余りの年月を経て、心ある有志の人々が発起人となって昭和二十八年七月に共同部落俵御興同志会が発足します。同志会は途絶えていた中富良野神社への大注連縄の奉納を再開し、現在でも中富良野神社の大鳥居には重さ三十貫の大注連縄が毎年奉納されています。

百万道民の幸福を祈り第四回目の奉納。その後も、奉納は続き平成二年の四月には平成の御大礼記念として十回目、天皇陛下の御即位三十年、御代替わり、そして北海道神宮の御鎮齋百五十年の年である平成三十一年には十八回目の奉納が行われました。

特徴

なんとといっても最大の特徴は太い注連縄の上に乗せられた二つの俵です。この俵は岩木山神社の大注連縄にも乗っており、こちらは三つ重なっています。また、右縄左縄は左右対称に纏われていることで、大注連縄になったときにバランスが取れるようになっています。左右の結び方も特徴的で、四葉のクローバーのような四ツ目結びと呼ばれる結び方になっています。こちらも岩木山神社の結び方と似ておりますが、岩木山神社では井形に結ばれているのに対して、北海道神宮では結び目の中心は閉じています。



同志会による製作作業 (提供: 中富良野俵御興同志会)

います。

昭和二十八年には旭川市に鎮座する上川神社の例祭に際して、重さ百貫長さは七十メートルにもなる大注連縄を奉納し、上川神社宮司柴田直孝氏より感謝状を受領しています。

昭和三十四年、ついに札幌神社(現北海道神宮)への大注連縄の奉納を行うこととなります。これは同志会の長年の宿願ともいえる一大事業でした。同年二月のはじめ、同志会会長並びに副会長が中富良野村長森善治氏、中富良野神社宮司太田正二氏と会談し、太田宮司の案内で上川神社の柴田宮司を通じて、札幌神社宮司佐伯芳彦の了解を求めました。その結果太田宮司の提案により同志会名で願い状を出すことになりました。同年二月、同志会会長の太田稲城氏と奈良岡八三郎氏の二名が札幌まで出向き、札幌神社の佐伯宮司と面談したところ、佐伯宮司の意向により札幌神社御鎮齋九十周年にあたって神門に大注連縄を奉納することが決まります。これを受けて三月末日から会長宅に会員並びに有志による賛助会員が集まり、右縄用、左縄用で合わせて約五〇〇〇本もの手縄を纏って、大注連縄を纏い挙げました。

同年六月十三日午前四時、大注連縄は中富良野村役場の大型バスに積み込まれ、同志会会員と共に札幌へと出発しました。午前八時四十分には札幌神社に到着、北海道知事町村金吾氏や中富良野村長森善治氏、ホクレン農業協同組合連合会専務星野久三郎氏(中富良野農業協



手縄を纏う児童(提供: 中富良野町教育委員会)

現在の注連縄

現在神門にかけられているのは、本年三月十八日に奉納された大注連縄です。長さは約四十五メートル、重さは約二百キロ。昨年の令和四年十一月十九日から製作をはじめ、二十日間同志会の会員が交代で毎日作業を行い、延べ人数では百三十名が携わり完成させています。また、その制作にあたっては中富良野にある全ての小学校の児童たちが纏った手縄も使用されています。奉納当日は中富良野町長も来札し、約三十名での取り付け奉仕を行いました。

社頭風景

四月～五月

昭和祭

昭和天皇が御誕生された4月29日(昭和の日)、午前十時より昭和天皇のご聖徳をお称えする「昭和祭」を斎行し、祭典では舞楽「迦陵頻」を奉奏いたしました。参列者一同、改めて昭和の御代を顕彰し、皇室の弥栄と国家の発展を祈りました。

昭和天皇は戦後沖繩を除く四十六都道府県を巡幸されましたが、北海道への巡幸は朝鮮戦争や、北方領土を占領するなど間近にあったソ連の脅威、また戦後の治安の問題等からなかなか実現することはなく、四十六都道府県では最後の昭和二十九年となりました。しかし、昭和天皇は終始北海道に御心を寄せられており、「私が行けば北海道を何かの時見捨てぬ」という証拠になる」と述べられるなど、周囲が反対する中においても北海道巡幸を強く希望されていました。

また、昭和天皇は摂政の宮であらせられました大正十一年、即位されてからは

昭和十一年、昭和三十六年、昭和四十三年の四度に渡り当宮への御参拝を賜っており、当宮の御祭神でもあります明治天皇をお祀りするにあたり、御裁可を頂きましたのも昭和天皇からでした。



舞楽「迦陵頻」

開拓神社杯 軟式少年野球大会 開会式

四月十六日(日)午後五時三十分、第三十六回北海道神宮末社開拓神社杯軟式少年野球大会の開会奉告祭並びに開会式



開会奉告祭



開会式

が北海道神宮拝殿にて行われました。大会の安全を祈願した祝詞の後、各チームのキャプテンと監督が玉串の拝礼を行いました。

開会式では、星野尚夫大会長の挨拶の後、昨年優勝の東雲ファイターズ、準優勝の手稲ヤングスターズより旗とカップが返還されました。その後、佐藤秀雄実行委員長より大会運営についての説明があり、ビッグホエールズのキャプテン小廣川双喜君から元気の良い選手宣誓がありました。総勢二十チームにより四ブロックリーグ戦を行い、それに勝った四チームで決勝トーナメントが行われることとなります。決勝戦は七月二十七日にぜひむにて行われます。

神饌田御田植祭

五月十一日(木)午後一時、東川町の北海道神宮神饌田にて、第四十五回神饌田御田植祭を斎行いたしました。早朝から農業協同組合中央会・東川町農業協同組合青年部の方々により会場が設営され、祭典では田長を北海道農業協同組合中央



早苗を植える早乙女

会の山元勝博氏、田長介助役を同中央会の長縄道弘氏、耕作長を東川町農業協同組合の樽井功氏がそれぞれ務め、祭儀が厳粛に執り行われました。今回は四年ぶりに札幌から奉仕団約二十五名が参列し、北海道神宮神饌田合唱団の田植え歌に合わせ早乙女が早苗を植え、豊作を祈願しました。祭典終了後に一行は湯元白金温泉ホテルに宿泊し、翌日には中富良野神社を正式参拝、フラノマルシェ、チーズ工房、ドレーヌメゾンなどを見学して帰路に着きました。

植樹祭並びに剪定奉仕

五月四日(木)午前十時より本殿において植樹祭を斎行いたしました。祭典終了後、札幌造園協会、札幌造園技能士会による剪定奉仕、並びにボーイスカウト札幌第一団による植樹作業が行われました。



植樹するスカウト

駐札幌米国主席領事 並びに米国エネルギー省 職員参拝

四月十六日(日)、マーク・ウェベルス駐札幌米国主席領事並びに、G7気候・エネルギー・環境大臣会合の為来札した米国エネルギー省職員の皆様にご参拝いただきました。一行は境内を散策したのち、御神前にて正式参拝を行いました。



駐札幌米国主席領事並びに米国エネルギー省職員

開拓判官島義勇顕彰祭

四月十二日(木)午前十時より参集殿において開拓判官島義勇顕彰祭を斎行いたしました。今回はご案内の範囲を縮小しての斎行となりましたが、その中でも佐賀県知事山口祥義様、島判官ご子孫の敷内理様、札幌秋田県人会様、衆議院議員(会期中にて代理)、参議院議員(同)、北海道議会議員、札幌市議会議員、北海道開発局長石塚宗司様をはじめ約七〇名のご参列をいただきました。北海道での開拓判官としての功績、秋田での初代権令(知事)としての功績を讃える祝詞の後、巫女の神楽、吟詠講議長有馬郁文様による島判官作の和歌並び漢詩の吟詠がありました。

また島判官の出身地である佐賀、そして島判官の拓いたこの札幌・北海道の有志の皆様より地元の銘酒・名産品等が多数奉納され、神前にお供えいたしました。

いよいよ二百万都市にもなるうかと言われる札幌の発展は、島判官の壮大にして先見性のある都市計画のお蔭であり、秋田での初代権令としては県政の礎を築くなど、島判官の数々の偉業に参列者一同改めて敬意と感謝を捧げました。



祝詞奏上



神楽奉奏



山口佐賀県知事

五月人形展示

四月十九日(水)から五月二十一日(日)まで祈禱者控殿において、人形作家・山田裕嗣氏所蔵の明治から昭和までの貴重な五月人形と、当別甲斐の会の吊るし人形を展示いたしました。



令和五年 開拓判官島義勇顕彰祭奉納者一覧 (敬称略・順不同)

- 富山 富美子 金一封
- 内田 守孝 金一封
- 谷 温子 金一封
- 廣瀬 裕子 金一封
- 敷内 理 金一封
- 石丸 純子 金一封
- 佐賀市市長 坂井 英隆 佐賀のり 日本酒2升
- 佐賀市議会 議長 重田 音彦 日本酒2升
- 佐賀市議会 議員 福井 章司 日本酒2升
- 佐賀市議会 議員 黒田 利人 日本酒2升
- 佐賀県神社庁 庁長 徳久 俊彦 お菓子1箱
- 有限会社小笠原商店 代表取締役 藤田 栄一 米蜜12本
- 矢野酒造株式会社 代表取締役 矢野 元英 日本酒4升
- 松尾建設株式会社 社長 松尾 哲吾 金一封
- 札幌秋田県人会 会長 阿部 道宏 日本酒3升
- 北海道神宮 名誉宮司 吉田 源彦 金一封
- 開拓判官島義勇顕彰会 世話人 合田 一道 金一封
- 北海道神宮 責任役員 荒邦 弘 金一封
- 北海道神宮 参与 真柄 光吉 金一封
- 北海道神宮 参与 中山 菊雄 金一封

- 衆議院議員 中村 裕之 金一封
- 衆議院議員 道下 大樹 金一封
- 衆議院議員 高木 宏壽 金一封
- 北海道議会 議員 淵上 綾子 金一封
- 札幌市議会 議員 藤原 広昭 金一封
- 札幌市議会 議員 長内 直也 金一封
- 札幌市議会 議員 北村 光一郎 金一封
- 一般財団法人北海道河川財団 会長 岡部 和憲 金一封
- 北海道国民健康保険団体連合会 顧問 石子 彭培 金一封
- 前月形町長・矯正広報大使(名誉典獄) 櫻庭 誠二 金一封
- 伊藤組土建株式会社 取締役 会長 伊藤 義郎 金一封
- 伊藤組土建株式会社 代表取締役 社長 大谷 正則 金一封
- 岩田地崎建設株式会社 代表取締役 社長 岩田 圭剛 金一封 日本酒3升
- 一般財団法人北海道菓子協会 理事長 長沼 昭夫 金一封
- サッポロビール(株)北海道本社 代表 森本 光俊 開拓使 麦酒 金一封
- 北海道土産自動車株式会社 取締役 社長 原田 彦エ門 金一封
- 合同会社豆屋とかち岡女堂 代表社員 鈴木 真智雄 北の判官豆30箱
- 株式会社丸亀 代表取締役 社長 若月 裕之 日本酒2升
- 札幌村郷土記念館保存会 会長 橋場 善光 金一封
- 桑園地区連合町内会 会長 山内 睦夫 金一封
- 札幌市東区栄西連合町内会 顧問 大竹 實 金一封

- 北海道神宮 奉賛吟詠講議長 有馬 郁文 金一封
- 北海道神宮 奉賛吟詠講 金一封
- 青衣講 議長 石川 実 金一封
- 青衣講 理事 千葉 幸一 金一封
- 北海道神宮 奉賛むすび会 会長 柴 元博 金一封
- 西岡八幡宮 氏子 総代 渡辺 恵美子 金一封
- 北海道神宮 敬神婦人会 副会長 長沼 裕子 金一封
- ガールスカウト北海道第八団 金一封
- さざれ石会 副会長 工藤 信行 金一封
- 白馬堂印刷株式会社 金一封
- 大乘院 薬王寺 国安寺 住職 田中 清元 金一封
- 有限会社エアータイプ 代表取締役 田中 宏明 金一封
- 株式会社ヤオシ 代表取締役 八尾 師絹子 金一封
- 関 正治 金一封
- 太田 和幸 金一封
- 山本 晃靖 金一封
- 畑地 佳子 金一封
- 井浦 功雄 金一封
- 小池 美恵 金一封

奉賛会だより

奉賛会大祭

五月十三日(土)岩田会長をはじめ約二三〇名の会員が参列して奉賛会大祭が斎行されました。
祭典終了後は参集殿で総会が開催され令和四年度事業報告並びに収支決算、令和五年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で議決されました。



総会の様子

◆新入会員・協賛者のご紹介

当会へのご入会・ご協賛を頂きまして、まことに有り難うございます。令和五年三月一日から令和五年四月末日までのご入会の方、また会費以外にご協賛頂きました方のご芳名をご報告いたします。お名前漏れ等がございましたら、お手数ですが事務局までご連絡下さい。
(敬称略・順不同)

◆新入会員のご紹介

柴田 文秋
栗林 美加
㈱ペルライフ
佐藤 和子
播磨 裕次
伊藤 信男
落合 哲也
中山 晃
山田 和宏
総合探偵社シークレットジャパン様

◆協賛者のご紹介

◇二万円
田本 里佳

◇一万二千円
佐藤のぞみ

◇一万円
大長 記興
大乗院薬王寺 住職 田中 清元
北陽ビルサービス㈱代表取締役 其田 雅人

◇五千元
梅澤 朱実
船見 由貴
米田 光秀
㈱米山商店
竹田 博泰
栗林 美加

◇三千元他
宮地 宏
前田 生馬
熊谷 亘泰
松田 基
中山 晃

【令和四年度事業報告】

令和四年四月一日から
令和五年三月三十一日まで

一、会 議
・理事会(書面) 令和四年四月
・総 会(書面) 令和四年五月
・常任幹事会
令和五年三月二十九日(水)

二、北海道神宮奉賛会大祭の実施
令和四年五月十四日(土)、会員を代表して岩田会長が参列し斎行されました。

三、会員の動態
(令和五年三月三十一日現在)
・在籍会員数 二、一三五名
(前年度 二、二七五名)

・新入会員数 九十一名
(前年度 九十九名)

四、屋根銅板奉納事業
(令和五年三月三十一日現在)
・屋根銅板 四二〇枚
(前年度 三〇三枚)

五、施設整備事業
・奉納銅板を購入しました。

六、教化事業
・ポイスカウト・ガールスカウト育成に協賛しました。

七、会員関係事業
・入会時に会員証と会員バッジ及

【令和五年度事業計画】

令和五年四月一日から
令和六年三月三十一日まで

一、会議の開催
総会・理事会・常任幹事会を開催します。

二、北海道神宮奉賛会大祭の実施
北海道神宮奉賛会大祭を斎行します。

三、会員の増強
本年も引き続き会員及び関係機関の協力を得まして会員増強を図りたいと思います。

四、施設整備事業
北海道神宮の各種整備事業へ向けての資金の積み立てをします。

五、屋根銅板奉納事業
本年も引き続き、屋根銅板奉納の事業を推進します。

六、教化事業
・北海道神宮並びに関係団体とともに青少年育成の教化事業の推進を図ります。
・境内の清掃奉仕を実施します。

び門標を送呈しました。
・会員に家内安全の祈禱による昇殿参拝を勧奨しました。(年間約四〇〇件)
・新年の祈禱神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送付しました。
・年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付しました。

八、役員異動一覧

【退任】
●顧問(令和五年二月)
北海道商工会議所連合会
名誉会頭 高向 巖
●副会長(令和四年十二月)
北海道水産会
代表理事会長 川崎 一好
●理事(令和四年六月)
北海道商店街振興組合連合会
理事長 菊池 恒
●理事(令和五年三月)
北海道商工会議所連合会
副会頭 山本 秀明
●常任幹事(令和四年六月)
北海道経済連合会
専務理事 瀬尾 英生
●常任幹事(令和五年三月)
北海道商工会連合会
専務理事 戸澤 孝一

●常任幹事(令和五年三月)
北海道林業協会
事務局長 八巻 良博
●常任幹事(令和五年三月)
北海道商店街振興組合連合会
専務理事 針山 百合江

【就任】
●副会長(令和四年十二月)
北海道水産会
代表理事会長 阿部 国雄
●理事(令和四年六月)
北海道商店街振興組合連合会
副会頭 中野 豊
●常任幹事(令和四年六月)
北海道経済連合会
専務理事 水野 治
●常任幹事(令和五年三月)
北海道商工会連合会
専務理事 鳴海 拓史
●常任幹事(令和五年三月)
北海道林業協会
事務局長 寺島 幸弘
●常任幹事(令和五年三月)
北海道商店街振興組合連合会
専務理事 田口 滋
●常任幹事(令和五年三月)
北海道神宮
禰宜 今井 建
(予定者を含む)

渡御奉仕員募集

〔六月六日締切り〕
奉賛会会員を対象に例祭渡御奉仕の募集を行っております。詳細は事務局までお問合わせ下さい。
(ホームページ参照)

・札幌まつり渡御奉仕員の募集を実施します。
・北海道開拓の歴史の闡明と先人諸霊の敬仰・顕彰の事業を実施します。
七、会員関係事業
・入会時に、会員証を発行し、会員バッジ・門標を送呈します。
・新年の祈禱神札・本暦・絵馬・神道教化資料などを送呈します。
・一年に四回「奉賛会だより」を登載した社報「北の志づめ」を送付します。
・会員優遇の「家内安全」の祈禱の昇殿参拝を勧奨します。
・新型コロナウイルス感染症の状況を見て判断し、正月七日間の神酒拝戴を実施します。



〈事務局〉〇一一・六一一・〇二六一
(九時〜十七時)